

すごい! 大分コンビナートの今と未来

大分コンビナートは大分県にとって、どんなにすごい存在なのでしょう？
コンビナートは、どんなふうに入々の暮らしに関わっているのでしょうか？
まず、コンビナートを知ることから、大分コンビナートの今と未来を追って紹介していきましょう。

コンビナートってなに？

コンビナートは、企業がお互いに生産性の向上のために原料・燃料・工場施設を結び付けた企業集団のことです。石油精製工場(製油所)と石油化学工場(エチレンプラント)を含む複数の企業を、パイプラインで結びつけ、製鉄所などとも密接に結びつき、全体で効率を高めているのが、石油化学コンビナートです。

日本で石油化学コンビナートと呼ばれる地区は、鹿島、千葉、川崎、四日市、大阪、水島、周南、そして大分などです。

コンビナートは、各地域にとって、大きな雇用の受け皿であり、地域経済を支えるかけがえのない存在です。



大分コンビナートの今

大分コンビナートは、製油所と石油化学の両方の機能を有する九州唯一の石油化学コンビナート地区です。世界有数の水深に恵まれた大分港とともに、半世紀を超えて発展してきました。現在、大分コンビナートは、アジアに最も近いコンビナートという地理的条件を活かし、国内はもとより世界で高い競争力を持つ多種多様な企業が立地しています。また、コンビナート内の約400の事業所では約1万3千人が働いており、地域の雇用の核としても大きな役割を担っています。

大分コンビナートの取り組み

高度成長期から日本経済を支え続けているコンビナートですが、海外との競争激化など、コンビナートを取り巻く環境は厳しさを増し続けています。今後も厳しい競争を勝ち抜いていくためには、コンビナートが一丸となってさらに競争力を高める必要があります。

その対応として、大分では、平成24年にコンビナート企業12社(現11社)と、大分県、大分市からなる「大分コンビナート企業協議会」を設立。企業間の高度な連携による競争力強化を進めるため、企業・自治体が一丸となって様々なテーマに取り組んでいます。

主なテーマとして、各事業所での余剰エネルギーや副産物(水素等)の有効活用、恵まれた港湾環境を最大限に活かす物流機能の強化、高度な人材育成の推進などに取り組み、令和元年からはスマート保安、令和4年からはカーボンニュートラルの検討も始めています。

このようなか、平成30年にスタートしたJXTGエネルギー(現:ENEOS)株大分製油所と昭和電工(現:クラサスケミカル)株大分コンビナートの連携事業も進んでいます。今後も競争力強化の取組を推進し、更なる連携を進めていくことが必要です。

大分コンビナートの未来

県経済を支える大分コンビナートが、厳しい国際競争を勝ち抜き、持続的に発展していくことは、今後の大分県の発展にも欠かせないことです。そのために、多様な素材型産業の集積、恵まれた港湾、アジアに近いといった日本有数の立地環境を活かし、更なる競争力強化に取り組んでいます。

今後の目標

- 海底パイプラインの設置等による高度なエネルギー融通
- 多様なエネルギー源・自家発電設備のベストミックス
- アジアと日本を繋ぐ、国内トップクラスの港湾物流機能の実現
- 安全対策、環境保全、競争力強化の高いレベルでの調和



すごい! 世界有数の港、大分港を知ろう!

大分コンビナートが立地する大分港の知られざる「顔」とは？
知るほどに、大分港ならではの魅力と開ける未来が見えてきます。



東西25km 横長に開けた港

大分港は、東西25kmに及び横長の開けた港です。6カ所の泊地はそれぞれの入り口が独立しています。日本の主となる産業である多様な企業が立地しているため、原油タンカー、銻石船、コンテナ船等の外航・内航船舶が多数入港する、全国に誇れる重要港(特定港)となっています。

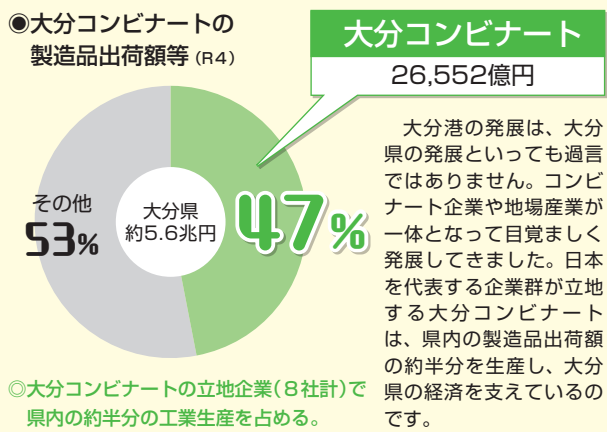


深い深い 天然の良港

水深が深いことは、港にとって大きな利点です。大分港は、大水深の天然な良港であることで、世界最大級の大形船が満載で着岸可能な、世界でも数少ない港なのです。

- 日本製鉄九州製鉄所大分地区
水深30m 日本で唯一、世界最大級の銻石運搬船(40万トン級)が満載で着岸可能。
- ENEOS 株大分製油所
水深24m 世界最大級のVLCC(超大型タンカー/30万トン級)が満載で着岸できる、国内でも数少ない製油所。

県内の約半分を占める工業生産(R4)



貿易港としても九州の顔

● 大分港の主な統計

項目	量	全国順位	九州順位
港湾取扱貨物量(R5)	6,492万トン	10位	2位(1位:北九州)
入港船舶総トン数(R5)	6,891万トン	11位	2位(1位:北九州)
総貿易額(R5)	29,425億円	15位	2位(1位:博多)

約400年前、大友宗麟の時代から、大分港は我が国でも有数の貿易港の一つとして栄えてきました。その歴史を受け継ぎ、現代も九州を代表する重要港湾としての役割を果たしています。

● 大分港は九州を代表する貿易港
※総貿易額は、大分、中津、佐賀間の合計

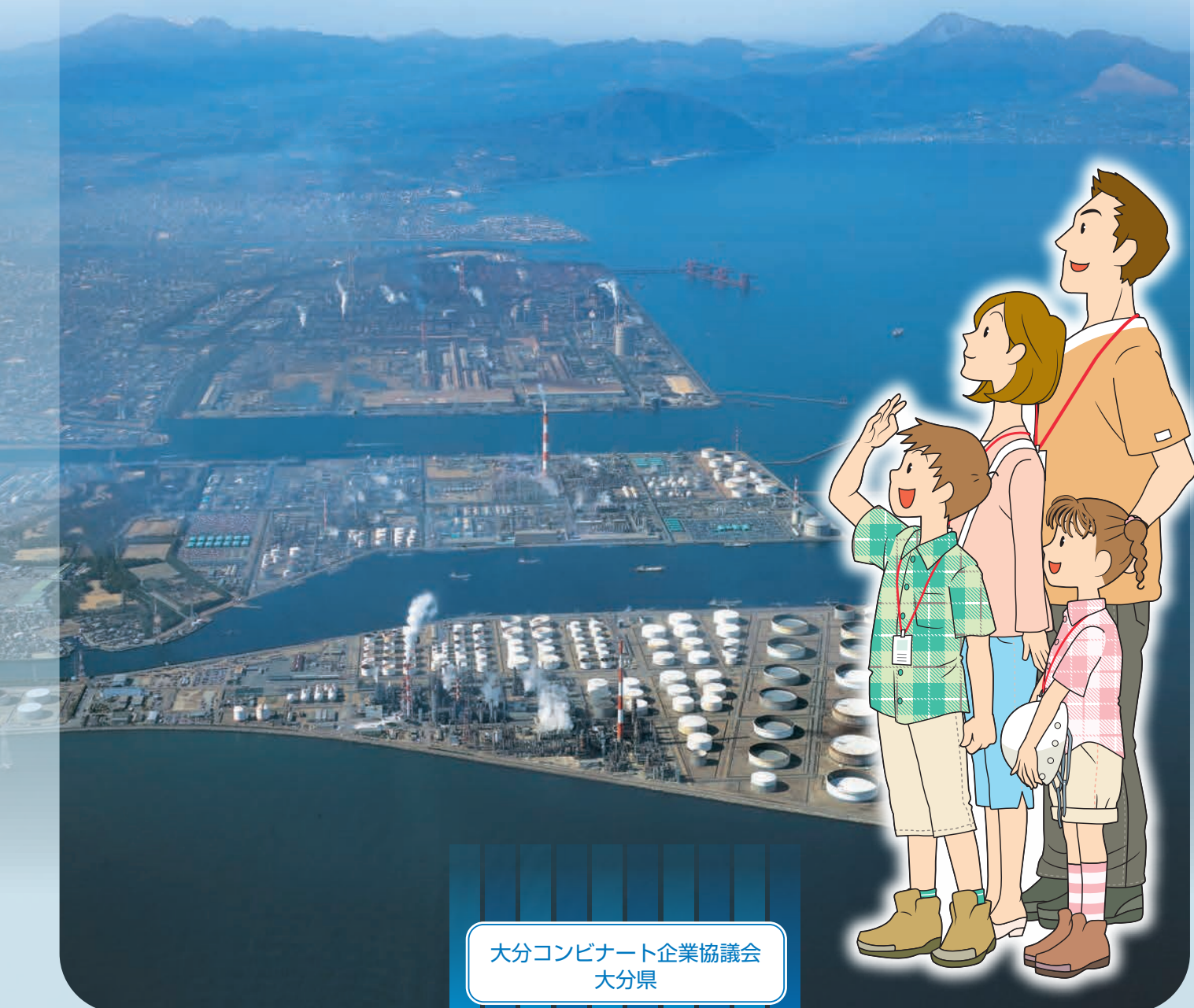


大分コンビナート企業協議会
(事務局: 大分県商工観光労働部産業GX推進室) ☎097-506-3294

知って おどろく!

大分コンビナート

大分の海の玄関口として、ものづくりの拠点として、半世紀を超えて、県経済を支え続けている大分港と大分コンビナート。知っているようで知らない大分コンビナートのすべてをご紹介します。



大分コンビナート企業協議会
大分県

写真で振り返る 大分港の歴史

1965(昭和40)年に国際貿易港となつて以来、大分港は大分県を支える港として発展してきました。街と、企業と、人とともに歩んできた歴史を振り返ります。

年表

- 1950 大分港の歩み 大分県・国のできごと
- 1951 港湾法に基づく重要港湾に指定
- 1954年~ 高度経済成長の開始
- 1957年 (旧)大分空港開港(大分市)
- 1959年 大分鶴崎臨海工業地帯造成開始
- 1960 大分県庁舎(現・本館)竣工
- 1962年 九州石油(現:ENEOS)大分製油所(1号地)操業開始
- 1964年 大分地区新産業都市に指定
- 1964年 東京オリンピック開催
- 1965年 関税法に基づく開港に指定
- 1965年 明野団地の造成開始
- 1966年 第21回国民体育大会(副健国体)大分開催
- 1969年 昭和電工(現:クラサスケミカル)大分コンビナート(2号地)操業開始
- 1970 ダイヤモンドフェリー(現:商船三井さんふらわあ)が大分~神戸新線を運航開始
- 1970年 新日本製鐵(現:日本製鉄)大分製鐵所(3・4号地)操業開始
- 1971年 新大分空港開港(現在の国東市)
- 1972年 検疫法に基づく検疫港に指定
- 1972年 大分交通大橋(軌道線)の廃線
- 1977年 大分市中央卸売市場(5号地)開場
- 1977年 九州電力八丁原発電所が運転開始
- 1980 三井造船(現:三井E&S)(7号地A地区)が操業開始
- 1981年 第1回大分国際車いすマラソン大会
- 1990 大分エス・エヌ・ジーが操業開始
- 1990年 大分港開港25周年記念事業「夢ポートOITA'90」開催
- 1991年 九州電力新大分発電所が操業開始
- 1993年 日本・ボルトガル友好450周年記念「フェスタボルトガル」開催
- 1994年 県民サッカークラブチーム「大分リニエリ」(現:大分トリニティ)発足
- 1996年 大分コンテナターミナル供用開始
- 1996年 大分自動車道(米良~鳥居)全線開通
- 2000 APJ(立命館アジア太平洋大学)開学
- 2000年 FIFAワールドカップ日本大会開催
- 2002年 第63回国民体育大会(チャレンジ!おおいだ国体)開催
- 2003年 大分ホーバーフェリー廃止
- 2009年 新日本製鐵(現:日本製鉄)大分製鐵所第1高炉改修(世界最大のツイン高炉体制に)
- 2010 メガソーラーが6号地で稼働
- 2013~14年 東九州自動車道県内区間全線開通
- 2015年 JR大分駅ビル完成
- 2015年 大分県立美術館OPAM開館
- 2016年 パナシフィック・カップ(現:JX金鋼製鉄)佐賀製鉄所操業100周年
- 2016年 パナシフィック・カップ(現:JX金鋼製鉄)佐賀製鉄所自溶炉大改修
- 2017年 昭和電工(現:クラサスケミカル)大分コンビナート操業50周年
- 2019年 ラグビーワールドカップ2019TM日本大会開催
- 2020 新型コロナウイルス感染症に対応する新しい生活様式としてテレワークなど普及
- 2020年 脱炭素と持続的発展の両立をめざす「グリーン・コンビナート」の推進構想とりまとめ
- 2024 新型「グリーン・コンビナート」の推進構想とりまとめ

